

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立花背小中学校 )

1 平成26年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(小中9年間の一貫教育による確かな学びの構築)	2. 豊かな心の育成(施設一体型一貫校・へき地小規模校の特性を活かした協働活動)
3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立, 体力の向上)	

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価	
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						評価日	平成26年9月1日	評価日	平成26年9月18日
アンケート実施結果, その他指標の結果について整理						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに )	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策		学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	わかる授業の創造 読書の習慣化 家庭学習の習慣化	・各教科での言語活動のさらなる充実 ・全体及び各期の授業研究 ・毎日の朝読書の実施 ・100冊読書の取組 ・学校図書館の整備 ・学年に応じた課題提示 ・テスト前をはじめとする家庭学習計画表の取組	・京都市学習支援プログラムの結果 ・授業研究会の実施回数 「朝読書の時間にはしっかりと読書をしていますか」 「家庭学習をしっかりとしていますか」	ジョイントプログラム第5回【小学校総まとめ】国語の正答率が前回比で13%上昇, 算数は全市平均を大きく上回る 「できている」児童生徒の割合は94% 「できている」児童生徒の割合は94%, 「(あまり)できている」保護者の割合は30%	・算数では算盤学習と連携した取組の効果がでていることも窺える。 ・「家庭ではしっかりと読書をしている」保護者の割合は60%で, 習慣化しているとまでは言えない。 ・「家庭学習」のとらえ方に, 児童生徒と保護者との間に差異が認められる。	・思考力, 判断力, 表現力等の効果的な育成を図るために, あらゆる教科で言語活動の充実を具体的にを行う。 ・読書や家庭学習の時間を確保してもらうため, 各家庭で携帯電話の使用, メディア視聴やゲーム時間について見直してもらう。 ・「自学自習のすすめ」を学級通信や懇談会等で活用する。	・学校図書館の整備が進んでいる様子がよく分かります。本好きの子どもが増えるといいですね。	・家庭学習の習慣や家庭での読書習慣を身に付けさせるのは, 保護者の声掛けが大切だ。運営協議会として地域から保護者に働きかけることを考えていきたい。
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 あいさつの励行と望ましい言葉遣いの徹底 支え合い高め合う集団づくり	・花背ファームの取組 ・「花背学習」における地域の伝統や文化にふれる活動 ・登下校時の声かけの取組 ・異年齢集団による縦割り活動の取組	「学校行事や地域の行事に進んで参加していますか」 「友だちや教職員の方や地域の方に進んであいさつをしていますか」 「丁寧な言葉遣いができていますか」 ・児童生徒の変容 ・振り返りアンケートの記述内容	「している」児童生徒の割合は91% 児童生徒の割合はそれぞれ, 「している」88%, 「できている」85%, 保護者の割合はそれぞれ, 「している」80%, 「できている」30% 「同じ目標をもてはみんながまとまることを学んだ」「みんなをまとめることがとてもむずかしいことを知った」	・「花背学習」における様々な体験活動により, 地域に対する思いが深まってきている。 ・登下校時に自らあいさつする場面が増えてきた。 ・9年生にとっては, 下級生を思いやる心が深まり, リーダーとしての自覚が高まるよい機会となっている。下級生のよいモデルにもなっている。	・より多様な活動が行えるように, 地域の豊かな人材のさらなる発掘と活用を行う。 ・児童会や生徒会を中心とする子ども自らの主体的な取組を通して, 意識をさらに高めさせる。 ・来年度での取組を見越して, 文化祭では8年生にもリーダーとしての意識をもたせる。	・花背学習を通して学校がどのような子どもを育てたいのかが地域にしっかりと伝わっていないのではないかと。挨拶については家庭での模範部分が大きいが, 子どもは人と接することに対してあまり慣れていないということもあるのではないかと。地域の活動に参加する中で人間関係がつけられていく面もあるので, 子どもをどんどん出させていこうという親の意識も大切である。	・地域に対して花背学習9年間のカリキュラムを示してもらうことで, さらに協力できることを考えていきたい。 ・地域の大人も子どもも一緒にすることができる行事を学校と協力して企画できればと考える。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	・毎日の健康観察カードの取組 ・保健指導 ・遊びやスポーツを通した運動の習慣化 ・4年生からの運動部活動の実施	「早寝・早起きなど, 規則正しい生活をしていますか」 「しっかりと運動をして, 体力をつけていますか」 ・新体力テストの結果	「している」児童生徒の割合は82% 「つけている」児童生徒の割合は88%	・毎日の健康観察カードへの記入により, 就寝及び起床時刻, 朝食に対して関心はもっている。 ・休み時間や放課後にグラウンドで元気に遊ぶ児童生徒が増えている。	・保健だより, 学級通信, 学校だより等でも積極的に取り上げ, より高い割合をめざす。 ・運動することの楽しさや喜びをより一層味わわせるために, 児童生徒自身による行事の企画実施を行う。	・川の水で水泳学習をしていることが気にかかります。衛生基準は満たしていますが, 周辺環境に学習が依存するようでは不安を感じます。	・まちづくりの一環として, 地域として考えていきたい。
4	独自の取組	小中一貫教育の充実と発展 情報発信の充実	・期の取組 ・学習の柱部会の取組 ・花背わくわくバンドの取組 ・積極的なホームページの更新 ・学校だより等の全戸配布	・期の会や学習の柱部会の実施回数 ・演奏発表回数 ・学校ホームページのアクセス数 ・全戸配布回数	・期の会を月行事の中で定例化 ・2回(運動会と森都市フェスティバル)の発表 ・夏季休業前までの1日平均アクセス数50回	・日常的な情報交換も含め, 期の会の実施回数の増加が取組の充実につながっている。 ・これまでの一貫した取組とあわせて, 専門性ある地域の方々への支援により, 演奏に対する自信が深まっている。	・学習の柱部会の取組をさらに充実させる。 ・既存の曲の完成度を高めるとともに, 新しい曲への挑戦を通して意欲をさらに高める。 ・ホームページ担当者だけでなく, 各教職員がそれぞれの立場(学年など)から発信することによって, より広く深く学校のことを伝えていく。	・演奏レベルは確実に上がっていると感じられる。 ・開校時からの特色の1つである1年生からの英語学習の取組もさらに進めてほしい。 ・地域の通信環境などの面から考えて, ホームページだけでなく学校だよりもさらに充実してほしい。	・特色ある学校づくりがより一層進められるよう, いろいろな面から応援していきたい。

# 平成26年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

学校名( 京都市立花背小中学校 )

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					自己評価		学校関係者評価		
・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					評価日 平成27年2月19日		評価日 平成27年3月19日		
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理					評価者・組織 学校評価委員会		評価者(いずれかに) 学校運営協議会 学校評議員		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善 に向けた支援策	
1	確かな学力	わかる授業の創造	・各教科での言語活動のさらなる充実 ・全体及び各期の授業研究	・京都市学習支援プログラムの結果 ・授業研究会の実施回数	・ほとんどの学年、教科で全市平均を上回る。特に、算数・数学については全市の中でもかなり上位に位置する。	・各期で「つきたい言語力」を明確にし、その育成に向けた取組を具体的にに行ったことが、各種調査の結果において成果として表れてきている。 ・学校図書館が整備されたことによって利用しやすいものとなり、児童生徒の読書に対する意欲や教科学習などでの活用度合いも高まってきた。 ・「家庭学習」の実現度に、児童生徒と保護者との間に依然として差異が認められる。	・「学習の柱」での取組による言語活動のさらなる充実を図り、児童生徒の学力のより一層の向上を目指す。 ・学習における図書館利用を計画的に位置付け、言語力育成をはじめとする学習活動のさらなる充実を図る。また、図書委員会を中心とする児童生徒自らの主体的な取組を通して、読書に対する意欲をさらに高めさせる。 ・「家庭学習」に対する指導について各期を中心として再検討し、小中9年間における「学習のしかた」指導の充実を図る。	・学年や教科として全市平均を上回ったことに満足せず、一人ひとりに本当に力がついているのか常に検証していったほしい。 ・どのような時代であっても、活字を読むことは大切ですね。 ・高校をはじめとする進路に関する図書や情報も充実させてほしい。	・「家庭学習」の実現度に差が認められるのは、親の責任もある。家庭として反省すべき点はないか振り返るとともに、学校と連携してより高い実現度を目指すよう働きかけていきたい。
		読書の習慣化	・毎日の朝読書の実施 ・100冊読書の取組 ・学校図書館の整備	・読書をしっかりとしていますか	・100冊読書達成児童48%				
2	豊かな心	家庭学習の習慣化	・学年に応じた課題提示 ・テスト前をはじめとする家庭学習計画表の取組	・家庭学習をしっかりとしていますか	・「できている」児童生徒の割合は82%に対して、保護者の割合は62%				
		豊かな体験活動の実践	・花背ファームの取組 ・「花背学習」における地域の伝統や文化にふれる活動	・「学校行事や地域の行事に進んで参加していますか」	・「している」児童生徒の割合は88%	・花背ファームで育てた芋を「別所井戸端」で販売したり、花背学習の発表会をしたりして地域に対する思いがより一層深まった。また、地域の方には学習における講師やインタビューに積極的に協力していただくなど、地域ぐるみの教育が着実に行われている。 ・言葉遣いの実現度が十分でないことの認識は、「児童生徒」「保護者」「教職員」とも一致している。 ・今年度の9年生は、7年生の時からリーダーとしての役割を求められてきており、その積み重ねもあってリーダー性を十分に発揮できていた。	・花背学習カリキュラムを広く地域全体に提示することで、学校の取組に関心をもちもらい、人的資源をはじめとする地域の教育資源の有効活用をさらに推進する。 ・「家庭」「学校」それぞれが果たす役割を明確にしながら、連携を図った取組を進めていく。 ・全校体制によるリーダーの育成という点から、縦割り活動の位置付けや指導体制についての共通理解を今年度図る。	・花背学習の発表会に参加したが、子どもたちは地域についてよく調べていて、とてもよい学習だと思った。これからもどんどん続けていったほしい。 ・親しい関係の中であっても礼儀やマナー、いかにとわらうことのけじめはしっかりとつけることは大切。 ・上級生が下級生に合わせることも多いので、本来身につけるべき力がついているのか不安もある。	・花背学習について、今後もあらゆる面で協力していきたい。
3	健やかな体	あいさつの励行と望ましい言葉遣いの徹底	・登下校時の声かけの取組	・友だちや教職員の方や地域の方に進んであいさつをしていますか	・望ましい言葉遣いが「できている」とする保護者の割合は38%				
		支え合い高め合う集団づくり	・異年齢集団による縦割り活動の取組	・児童生徒の変容 ・振り返りアンケートの記述内容	・「困った時には話し合いをしろ」 ・「(リーダーが)みんなにやさしくくれた」		・冬場の寒さと積雪により、屋内で過ごすことが多くなり、そのため生活リズムが乱れたり体を動かす機会も減少したりする傾向にある。	・当初、実施が危ぶまれていたスキー学習を今年も行うことができ、本当によかった。	・スキー学習は花背校ならではの特色ある取組なので、来年も実施できるように応援していきたい。
4	独自の取組	基本的生活習慣の確立	・毎日の健康観察カードの取組 ・保健指導	・「早寝・早起きなど、規則正しい生活をしていますか」	・「している」児童生徒の割合は79%		・冬期でもできる体力づくり(例えば、なわとびなど)の取組を意図的に設定し、体力の向上とともに充実感や達成感も味わわせる。	・「達成感と自信、向上心をもたせるという点から、多様な発表の場を設定していく。 ・行事だけでなく学校の教育方針もしっかりと発信していくように、学校ホームページや学校だよりの内容のより一層の充実を図る。	・地域への思いや学校設立の理念を教職員にしっかりと伝えていきたい。 ・「地域の日」の回数が増えたらうれしい。できるだけ参加することが、地域と学校の関係をより深めることにつながると思う。
		体力の向上	・遊びやスポーツを通じた運動の習慣化 ・4年生からの運動部活動の実施	・「しっかりと運動をして、体力をつけていますか」 ・新体力テストの結果	・「つけている」児童生徒の割合は73%				
4	独自の取組	小中一貫教育の充実と発展	・期の取組 ・学習の柱部会の取組 ・花背わくわくバンドの取組	・期の会や学習の柱部会の実施回数 ・演奏発表回数	・期の会を定例以外にも、日常的に行う。 ・3回(文化祭・鼓笛フェスティバル・地域の日)の発表	・鼓笛フェスティバルに参加したことで、他校の演奏に大きな刺激を受け、次の取組に対する意欲につながった。 ・「学校だよりの文字を見やすくしてほしい」という地域の声に応え、これまでB4判で作成していたものを年度途中からA3判に変更した。		・学校を中心とした地域づくりを進めてきている。「学力向上」「花背学習」「金管クラブ」「1年生からの英語学習」など、花背校の特色ある取組をもっと発信して、「子どもをぜひ花背校に通わせたい」と思うような家族をどんどん増やしてほしい。また、これらの取組を通して子どもたちに自信をもたせてほしい。	
		情報発信の充実	・積極的なホームページの更新 ・学校だより等の全戸配布	・学校ホームページのアクセス数 ・全戸配布回数	・1日平均アクセス数60回前後 ・学校だより12回及び学校行事のお知らせ4回の配布(全戸250部)				

## 4 総括・次年度の課題

・アンケート結果及びその分析などから、現在の「子ども」「保護者」「教職員」の各実現度について一定の理解を得ることができた。  
・「子ども」「保護者」「教職員」の各実現度が高いレベルで一致するように、学校はそのことを常に意識しながら日々自信をもって取り組んでいく。  
・結果を分析する際に、「子ども」「保護者」「教職員」3者の関連がより明確になるように、それぞれの項目の質問内容を再度検討する。  
・アンケートは各期で行っているため、結果の分析と課題の改善策についてはまず「期の会」を中心に行い、その上で全体で交流していくなど、取組の成果と課題、今後の方向性が期によってより明確となるようなアンケートの活用の仕方を工夫をする。